

スタイル・マニュアルと性差別表現

金 野 伸 雄

0. はじめに

よく知られているように、1960年代以降、主として女性解放運動 (feminism) の高まりにともない、性差別的な言語が様々な局面で批判を浴びるようになった。デビッド・クリスタルのいうように、このフェミニズムの強い影響はヨーロッパの主要な言語のすべてに及んでいるが、英語はとりわけ強い影響を受けてきた。⁽¹⁾

現在メディアは、このフェミニズムや、さらに90年代に入り PC (Politically Correct) 運動の強い圧力をも受け、性差別、人種差別からエコロジーの問題に至る幅広い領域で、公正・中立な偏見のない言語 (Bias-Free Language) の使用を求められている。そのメディアの編集者たちが、性差別的な言語 (sexist language) に対してどのような態度で臨んでいるかを、stylebook⁽²⁾を資料として具体的かつ詳細に考察するのが本稿⁽³⁾の目的である。

本論に入る前に、英語における性差別表現について若干ふれておく。最もよく批判の対象になっているのは、男性名詞 man 或は men、そして男性代名詞 he 或は his によって「人類」を意味する総称的用法である。つぎによく問題としてとりあげられるのは、たとえば Beth Schmidt, an attractive 49-year-old physician, and her husband, Alan Schmidt, a noted editor という例にみられるように、男性については成しとげた業績をとりあげながら語るのに対し、女性については年齢や外見をとりあげながら語る失礼な習慣である。

以下、英語にみられる性差別表現がスタイル・マニュアルでどのように取り扱われているかをみていきたい。

1. 明らかに差別的な言葉づかいとされるもの

(1) *doll*

a pretty but frivolous or silly young woman (WNWD)⁽⁴⁾
(dated sexist sl. esp. US.) a pretty or attractive female (OALD)⁽⁵⁾

(2) *the weaker sex*

derog. women (COD)⁽⁶⁾

(3) *the little woman*

(slang) one's wife (Americanism) (WNWD)
colloq. often derog. one's wife (COD)

又, *Random House Webster's College Dictionary*⁽⁷⁾ では USAGE の欄で, 通常侮蔑的印象を与えると記述している。

2. 女性の身体的特徴を指す表現, その他

もちろん, この類の表現がすべて不適切であるというわけではなく, 場合によっては適切と考えられる表現もある。しかしちょうど the tiny Councilman という表現が適切でないのと同様に, 少なくとも次の表現を使って女性の外見についてそれとなくほめかすのは, 適切でないとされる。

(1) *comely* brunette

(dated or fml) (esp. of a woman) pleasant to look at (OALD)
特に女性について使用される場合が多いようだ。

(2) *petite*

small and trim in figure: said of a woman (WNWD)
これも同じく女性に関して使われるようだ。

(3) *pert*

(esp. of a girl or young woman) showing or suggesting a cheerful lack of respect; cheeky (OALD)

Longman Dictionary of Contemporary English, 3rd Ed.⁽⁸⁾ には,

a girl or woman who is pert is amusing, but slightly disrespectful
という記述がある。

(4) *attractive*

someone who is attractive is good-looking, especially in a way
that makes you sexually interested in them (*LDCE*)

(5) *bosomy*

(*infml*) (of a woman) having large breasts. (*OALD*)

(6) *leggy*

(of a woman) having attractively long legs. (*COD*)

*LDCE*には、a woman or child who is leggy has long legs という
記述があり、さらに a leggy blonde という用例もある。

(7) *blond* (also, esp. of a woman; *blonde*)⁽⁹⁾

a person, esp. a woman, having hair of a pale golden colour
(*OALD*)

その他、特に女性に対する特定の固定観念を助長する表現。これには比
喩表現が多い。

(8) *prim as a schoolmarm*

堅苦しくて口うるさい、先生のような女性

(9) *stern as a librarian*

図書館員のようにいかめしい

3. Man 及び Man を含む語

これは男性表現が女性をも含む概念として、総称的に使用されてきた例
である。

(1) *man, mankind*

人類すべてを意味する表現として容認されるが、性差別的意味合いを帯
びかねない場面では、*people* または *humanity* が好ましいとされる。フェ
ミニスト言語学者のいう、いわゆる *he/man language*⁽¹⁰⁾ である。

(2) *Councilman, Councilwoman*

男女両性が含まれるグループの場合は、council member が好ましいとされる。⁽¹¹⁾

(3) *Congressman, Congresswoman*

中立的な表現としては、member of Congress が望ましいとされる。⁽¹²⁾

(4) *fireman*

fireman の使用は男性に限る。中立的な表現としては firefighter を使用する。

(5) *mailman*

近年女性の進出がめざましい分野なので、letter carrier が中立的表現として望ましいとされる。

(6) *newsman*

この表現の使用は避ける。代わりに、中立的表現として、reporter, editor 又は journalist などを使う。

(7) *weatherman*

やはり女性の進出がめざましい分野で、weather forecaster が望ましいとされる。

(8) *freshman*

男女を問わずこの表現を使用する。⁽¹³⁾

(9) *foreman*

この場合も、男女を問わずこの表現を使う。ただし、forelady, forewoman, foreperson は避ける。⁽¹⁴⁾

(10) *spokesman*

spokeswoman を使うべきかどうかについては意見が分かれるが、spokesperson は認められていないようだ。⁽¹⁵⁾ 中立的な代替表現として representative も認められるようだ。

(11) *chairman*

総称的表現として、男女を問わず chairman を使う。chairperson, chair-

woman, chair⁽¹⁶⁾ は引用の場合を除いて避けるべきだとされている。中立的な代替表現として leader も容認されている。

(12) *salesman*

女性形としては *saleswoman* を使う。 *salesperson* は直接的引用の場合を除いて使わない。 *salesgirl* は軽蔑的印象を与えるので使わない。⁽¹⁷⁾

4. 男性代名詞の総称的用法

元来男性単数の代名詞である *he* の総称的な使用は、男性 (masculine gender) を人類一般と同一視し、その過程で女性を排除しているようにみえるという理由で、近年特にフェミニストからの批判が高まっている。

これを避ける方法として、次のような方法が試みられている。⁽¹⁸⁾

- (1) *he or she* (2) 混合形 *s/he, he/she, she/he* (3) *she* のみ使用
(4) *she and he* (5) 総称的 *she* (6) *he and she* と *she and he* を交互に使用
(7) 総称的 *you* と *one* (8) 複数代名詞 *they* (9) 書き換え

UPI では、記事の中で男性を仮定しているとうけとられるのは避けるべきであるが、それを回避する手段として *he or she* や *his or hers*⁽¹⁹⁾ という表現を使うのは避けた方がよいとしている。その代わり次の用法を指導している。すなわち、男性、女性いずれの場合でも男性代名詞を使用し、*he or she* は使わない。

A reporter attempts to protect *his* sources.

あるいは、次のように複数にして書き直すべきだとしている。

Reporters attempt to protect *their* sources.

5. 女性語尾 (Feminine Suffix)

英語で伝統的に使用されてきた女性語尾には、*-ess, -ette, -trix, -ine* がある。これらは指小接尾辞 (diminutive suffix) とも呼ばれ、その動作主たる女性に対する過少評価の原因にも結果にもなりうる⁽²⁰⁾ という理

由で、フェミニストの批判を受け、近年使用されなくなる傾向にある。

(1) -ess 語尾⁽²¹⁾

authoress, poetess, sculptress については、それぞれ author, poet, sculptor を使う。

女性形が依然として用いられている数少ない例として、waitress, actress があげられている。

(2) -ette⁽²²⁾

usherette は usher を務めている女性又は少女に対しては使わない。⁽²³⁾

(3) -trix

aviatrix

この語は今日では殆ど使用されない。女性パイロットで生前 *aviatrixes* あるいは *aviatrices* と呼ばれていた場合でも、*aviatrix* は使わず *aviator* を使用する。

executrix

女性に対しても、この *executrix* ではなく *executor* を使う。⁽²⁴⁾

(4) -ine⁽²⁵⁾

comedienne

ほとんどの場合、*comedian* を女性に対しても使うべきだが、*NYT* のように場合によっては *comedienne* の方がよいとする立場もある。⁽²⁶⁾

6. 敬称 (Courtesy Titles)

現在ほとんどの新聞や定期刊行物では、Mr, Mrs, Miss, Ms 等の敬称は使われていない。人物は姓と名だけを用いてとりあげられ、2 度目に言及される場合には、男性だけでなく女性も姓だけによるのがふつうである。ただ例外として、高位・高官の人物に対して、敬称が使われる場合がある。いづれにしても、敬称の Ms, Miss, Mrs が使われる場合、その敬称を使用する対象となる本人が、どの敬称を好むかを見きわめることが肝要である。

(1) Mrs と Miss

既婚、未婚、有名、無名の別を問わず、女性に最初に言及する場合、敬称の Mrs と Miss は省略される。それ以降は、通常の敬称に代わりうる肩書きがない場合にのみ、これらが使用される。

Jacqueline Onasis bicycled in Central Park unnoticed by photographers. *Mrs* Onasis was

Chris Evert defeated Billie Jean King *Miss* Evert and *Mrs* King played

Miss はまた、Marian Anderson, Jessica Tandy 等の、結婚はしているが、仕事の場では改姓後の名前を使用していない女性に対しても、使われる。

既婚女性によっては、夫の名前と自分の旧姓を並べて使うことを好む人もある。たとえば Margaret Chase Smith などの場合で、本人の好み明らかになった時には、このスタイルをとるべきである。

死亡記事の中においては、独身女性は本文、ヘッドライン共にたとえば Joan Manley とする。Joan Manley が既婚で、死亡記事が彼女の生前の活躍に対するものである場合、本文及びヘッドラインにおける言及では、Joan Manley とする。逆に、生前その活躍で有名であった John P Manley の妻の死を報じる記事であったならば、彼女に対する本文中での最初の言及は Joan Manley, the wife (or widow) of John P. Manley とする。また、ヘッドラインでは Mrs John P. Manley とする。

女性にはじめて言及する際には敬称は使わないという慣行にも、数は少ないが例外はある。すなわち、夫の名前が支配的要素となっている場合がこれである。

Mrs. Martin Luther King Sr. was honored today

他に少し例外をあげておく。たとえば、第一に、John P. Manley が世界的に有名なバプテスト派の伝道者である場合や、第二に、有名なテレビ・パーソナリティであるような場合である。

Mrs. John P. Manley announced today that she had converted to Buddhism.

Mrs. John P. Manley died today after a short illness.
しかしこの場合、次の形でも事足りるであろう。

Joan Manley, wife of the renowned Baptist evangelist John P. Manley, announced today that she

既に亡くなった著名な女性への言及が数回に及ぶ場合、MrsまたはMissが省略されることがある。たとえば Curie, Woolf など。これは現存する何人かの女性にも当てはまる (Fonteyn, Callas 等) が、敬称の省略または使用は文脈次第であろう。

(2) Ms について

この敬称は、省略された形の肩書きで、Mr に対抗するものとして70年代に考案された。性別は示すが、婚姻状況は示さない。ただ NY タイムズ紙のみ、その使用に対して消極的な姿勢がみられる点が特長的である。⁽²⁷⁾

7. 職業上及び社会的な肩書き⁽²⁸⁾

(1) *housewife*

他に、より正確な性格描写の可能な表現がある場合には、この語は避ける。たとえば、女性が議員に選出された場合、A 34-year-old housewife was elected to the State Assembly. と表現されたとしよう。するとこの表現の中に、女性の職業経験や能力に対して軽蔑的な響きを感じとられることがある。また同時に、こういう表現をすると、筆者として当の女性が公共の仕事に目に見える形で参加することを、快く思っていないと理解される可能性もある。このような問題は、たとえば次のような例ではおこらない。34-year-old Staten Islander.

また、たとえばスーパーマーケットで「値段が高いわね」とボヤいている女性は、男性客の場合と同様 a customer (お客) と表現されるべき

であってわざわざ a housewife (主婦) とされるべきではない。つまり housewife の多用は行きすぎであり、その使用には注意を要する。

(2) *grandmother*

家族関係により女性を規定するこの語⁽²⁹⁾も、記事の内容と何の関係もない場面で使用された場合、housewifeと同様の問題が生ずる。

A grandmother runs a business.⁽³⁰⁾

Golda Meir, a doughty grandmother, spoke to the United Nations.⁽³¹⁾

a grandmother という情報がある文脈で適切かどうかの判断の基準は、同様な文脈で問題の人物が男性であった場合も、同じ情報が必要とされるかどうかであろう。つまり、Golda Meir がかりに Charles de Gaulle であったとしたら、上記の表現は Charles de Gaulle, a doughty grandfather, spoke to the United Nations. となったかどうかで判断されるわけである。

(3) *divorcée*

女性の離婚についてふれることが適当であるのは、男性に関する同様の記事で、離婚についての言及がなされる場合に限られる。かりに離婚の事実についての言及が適切な場合でも、書き出し (lead) ではなく本文中 (story) にすべきである。Divorcée も、男性形の divorcé も The woman or the man has been divorced. 或は A previous marriage ended in divorce. という表現を使用することにより、その使用を避けることが可能である。

(4) *widow*

widow が広く用いられているのに対し widower の使用はまれである。そのため widow は、しばしば女性差別的響きをとまなう。⁽³²⁾ これを避けるためには、wife 或は husband を使い、A man is survived by his wife. 又は A woman is survived by her husband. とする。

(5) *better half*

元来、夫又は妻を意味するが、この語は夫が妻のことを指す場合に使わ

れることの方が多く、ほとんど例外なく不快な響きをとまなうので、避けるべきである。⁽³³⁾

(6) *coed*

共学の大学等における女子学生を意味するこの名詞⁽³⁴⁾は、今ではやや古風でその使用は避けるべきである。college man, college woman 又は college student が適当である。ただし、coeducational の短縮語としての形容詞 *coed* は、現在でもヘッドラインでは使用される。

その他、通常、男・女の性的区別が読者の理解に欠かせないケースはまれであり、従って職業に言及する場合、性別がその記事にどうしても欠かせない場合を除いて、男・女の区別を示す修飾語句はつけない。たとえば、woman lawyer, male nurse, male model, woman reporter⁽³⁵⁾等は、いずれもほとんど常に性差別的 (sexist) とみなされる。

(7) *male, female*

一般論として、boys や men を指す名詞としての *male*, girls や women を指す名詞としての *female* は避けるべきである。⁽³⁶⁾ 形容詞としての使用は、問題ない。

8. 婉曲表現 (Euphemism)

ロビン・レイコフは「女」(woman) ということばの婉曲表現として、格上げのための装置としての *lady* と、若さ、未熟さの強調のための *girl* をあげている。⁽³⁷⁾ つまり、本来的に威厳が欠けるがゆえに、格上げが必要とする職業についている人 (女性) は *woman* でなく *lady* という名で呼ばれることが多い。また、未熟という概念を強調するとともに、そうすることによって *woman* に潜む性的意味合いをとり除くために、青春期を過ぎた一人前の女性が *girl* と呼ばれることも多い。若干ではあるが *Stylebook* でもそれに関する言及がある。

(1) *lady, gentleman*

gentleman が man の代わりに使われないのと同様、lady も woman の同義語として使用すべきではない。

(2) *girl*

woman あるいは young woman を girl とは表現しない。通常、極めて大きな不快感を与える表現であるから。また同様に、saleswoman を salesgirl とは表現しない。女子大学生に対する表現としては、college girl よりも college student⁽³⁸⁾ が好ましい。

(3) *girlfriend, boyfriend*

強い抵抗を受けながらも、きわめて広く用いられている口語であるが、他の表現では絶対に用をなさないということが明らかにならない限り、使用すべきではない。この表現を一人前の大人に対して使用するのには、正確さを欠くと同時に、特に不快感を与えることになる場合が多い。

9. 国名、船名、台風を指す名詞や代名詞

従来、国名や船名には、女性代名詞が用いられることが多かった。

国名については、she 或は her を使って擬人化することが適切である等の特別な場合を除いて、すべてについて it または its を使うべきであるとされている。

船名については、立場は必ずしも一様ではない。仮に船名が男性名詞であっても、ニューヨーク・タイムズ紙のように she 又は her を使うべきだという立場もあれば、ワシントン・ポスト紙のように it を使うべきだとする立場もある。

台風やハリケーンについては、これまでは直接女性名 (Alice, Betsy 等) をつけて表現されることが多かった。しかし女性名がついているからといって、女性の行動に関する性差別的なイメージを、台風又はハリケーンに与えることになってはならないとされる。従って、

Hurricane Alice struck the city.

は構わないが、

Alice behaved capriciously.

は好ましくない。同様に次のような表現は避けるべきだとされる。

Teasing Tilda turned her temper on Tokyo.

The fickle Hazel teased the Louisiana coast.

10. おわりに

フェミニズムの進展にともなって、現在、たとえば The American Library Association などの国立の組織のみならず、各メディア、出版社などでは、通常、性差別的言語を避けるための独自のガイドラインを設けている。主要な通信社、新聞社等の編んでいるスタイル・ブックには、それが具体的な形となって反映されている。各スタイル・ブックの立場には、例えば Ms に対する姿勢のように、明確な立場の違いの感じられる場合も若干あるが、全体から見ると、さほど著しい違いはないといってよい。また、PC などのやや行き過ぎた傾向に対しては、一線を画す姿勢がうかがえるようだ。

しかしながら基本的には、あらゆる取材領域で女性は男性と同等な扱いを受けること、すなわち、性の取扱いは公平であるべきで、これまで当然とされてきた前提や固定観念は取りはらうべきである、という明確な姿勢で言語表現をとらえ直そうとしているといえよう。

(注)

1. David Crystal, *The English Language* (London: Penguin Books, 1988), p. 256.
2. 使用したスタイル・ブックは、次の4種類である。
Jordan, Lewis (ed.), *The New York Times Manual of Style and Usage* (New York: Times Books, 1976). 以下、NYTと略す。
Lippman, Thomas W (ed.), *The Washington Post Deskbook on Style*, 2nd Ed. (New York: McGraw-Hill Publishing Company, 1989).
Goldstein, Norm (ed.), *The Associated Press Stylebook and Libel Manual* (Massachusetts: Addison-Wesley Publishing Company Inc.,

1992).

UPI Stylebook, 3rd Ed. (Lincolnwood: National Textbook Company, 1992). 以下 *UPI* と略す。

3. 分類については、主に下記を参照した。

Roger Fowler, *Language in the News* (London and New York: Routledge, 1991).

The New York Public Library Writer's Guide to Style and Usage (New York: HarperCollins Publishers, 1984). 以下, *NYWGSU* と略す。

4. *Webster's New World Dictionary of American English*, Third College Edition (New York: Prentice Hall, 1994). 以下, *WNWD* と略す。

5. *Oxford Advanced Learner's Dictionary of Current English*, Fifth Edition (Oxford: Oxford University Press, 1995).

6. *The Concise Oxford Dictionary of Current English*, Eighth Edition (Oxford: Oxford University Press, 1990).

7. *Random House Webster's College Dictionary* (New York: Random House, 1999). 以下 *RHWCD* と略す。

8. *Longman Dictionary of Contemporary English*, 3rd Edition (Harlow: Longman Group Ltd, 1995). 以下, *LDCE* と略す。

9. *RHWCD* は Usage の中で blonde を性差別表現ととらえる人もあり、このような人たちは全ての人物に対し blond を使うことを好むと解説している。

10. D. Cameron. *Feminism and Linguistic Theory* (London: Macmillan, 1985), p. 73.

11. 両性を含む表現としては Councilperson (*WNWD*) もある。

12. *WNWD* では中立的な表現として Congressperson もとりあげられている。

13. *WNWD* にも女性形、及び中立的な形はみられない。

14. フェミニストは supervisor を好む傾向があるようだ。

15. *WNWD* には 3 種類の形がすべて掲載されている。

16. *WNWD* にはすべて記載がある。K. G. Wilson, *The Columbia Guide to Standard American English* (New York: MJF Books, 1993. 以下, *Columbia Guide* と略す。)によると、最近 chair は inclusive English の中でスタンダードな地位を得ているとされている。又 chairwoman は chairlady とならんで、近年の exclusive language 追放の流れに先だって使用された用法である。近年まで広く使われていた形は chairperson であるが、最近とくに議会においてなぜか、女性の議長が好んで使うため復活しているのが chairman である。

17. この語に対立する salesboy は WNWD には記載されていない。レイコフのいう婉曲表現による女性差別の例である。(ロビン・レイコフ著 かつえ・あきば・れいのるず訳『言語と性 — 英語における女の地位』新訂版 有信堂 1997年 pp.47-48) この点では saleslady も同様である。
18. Tom McArthur, *Oxford Companion to the English Language* (Oxford, New York: O.U.P., 1992), p. 434. 以下 OCEL と略す。
19. 英語には性的に中立な 3 人称単数の代名詞がないことが原因で、このような代替表現が工夫されてきた。しかし, he or her はスタイルとしてごちないという理由で、又話しことばの中で anyone などのあとによく用いられる they は文法的に問題があるという理由で、この代替表現が必ずしも全面的に容認されているわけではない。P M Smith, *Language, the Sexes and Society* (Oxford: B. Blackwell, 1985), p. 38 参照。
20. P M Smith (1985), p. 46.
21. -ess As applied to persons, now often avoided as patronizing or discriminatory (WNWD)
22. -ette female [*majorette*]: as applied to persons, now often avoided as patronizing [*suffragette*] (WNWD)
23. 急激に消えつつある女性職業名の 1 つである。... an obsolescent word from a fast dwindling list of feminine occupational forms. *Usher* is today's word, and *ushers* may be either male or female. (*Columbia Guide*)
24. 女性名詞形の *executrix* は現在でも法律用語としては正式な表現として使われているが、古風な表現なので *executor* に急速にとってかわられつつあるようだ。 *Executrix*, the feminine form, is still in official use in some jurisdictions, but it is archaic and is rapidly being replaced by *executor* ... (*Columbia Guide*)
25. heroine を除いて廃れた形となっている。OCEL, p. 923.
26. 特に舞台女優で喜劇を専門とする役者に対しては、依然としてこの形が使われているようだ。... female comics are indeed now called *comedians*, but their publicity releases still sometimes use *comedienne*, particularly to refer to women who specialize in comic theatrical parts. (*Columbia Guide*)
27. As an honorific, use it only in quoted matter, in letters to the editor and, in news article, in passages discussing the term itself. (NYT, p. 133) cf. Lenora Williamson, "New York Times style-book does not recognize 'Ms'", *Editor & Publisher*, Feb. 7, p. 16.

28. この節については、*NYWGSU*, p. 19を参照。
29. 同時に年配女性に対する親称でもある。a term of respectful familiarity to any elderly woman (*WNWD*)
30. *NYWGSU*, p. 19.
31. *UPI*, p. 302.
32. 使用頻度の問題だけでなく、Mary is John's widow. のように widow は亡夫の名前を示す所有格を前にともなって現われるのが普通であるが、widower はそうではない。つまり、女はその結びついている男との関係で常にとらえられる。(ロビン・レイコフ, p. 65)
33. one's spouse; esp. one's wife: a humorous usage. (*WNWD*)
34. AmE old-fashioned a woman student at a university (*LDCE*)
35. girl reporter もありうるが、大人のレポーターでどうしても性別の必要な場合は woman reporter とすべきである。girl reporter は性差別的であるが、これについては後の euphemism の節でもとりあげる。
36. 名詞としては医学・科学用語であり、従って不快な響きをもつ。
37. ロビン・レイコフ, pp. 35-50.
38. 前項 coed を参照。